令和３年度業務実績にかかる小項目評価結果（案）　項目別整理表

資料３

■・・法人の見解を求めたい点

原案では、①具体的な実績をあげて、高く評価できると記述されている項目で、かつ、②今後について大きな改善点が求められていない項目を選定しています。

＜Ⅰ－第１　教育に関する項目＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
21101	適切な選抜の実施（学部）	－	－	県内の優秀な入学者を確保し、県内就職率向上の観点から、入試制度の点検を行い、三重県にあった方法を考え努力していることは評価できる。 特に、本学のアドミッションポリシーと入学者選抜方法の改革の方向は、令和4年度以降、県内高等学校や市町に周知し、理解を求めていく予定であるが、県教育委員会からは、新たに導入予定の「多言語多文化選抜」について、対象となる生徒にとって新たな進学の機会となることから、好意的な評価を得ており、注目される。 また、本学の推薦による入学者選抜では、これまで学習成績の状況（いわゆる評定平均値）について、主要5教科に絞り出願要件としていたが、今回の見直しを通して、全教科を対象とすることで、従来よりも幅広く学力の3要素を評価することができると考えている。 これらのことを通じて、本学が掲げるアドミッションポリシーにこれまでよりも整合した入学者選抜が実施できると判断しており、この入学者選抜実施方法の改革は、高く評価される。 今後も引き続きアドミッションポリシーに基づき、適切にPDCAサイクルを回すことにより、質を落とすことなく、丁寧に地域のニーズをくみ取りながら一層選ばれる大学になるような魅力ある選抜方法を継続的に考えていただきたい。	○	○	
21102	高大接続の拡大（学部）	－	－	「一日みかん大生」や「出前授業」は、参加者からの評価も高く、地域に貢献する看護職育成に向けての重要な取組であると評価する。 コロナ禍でもいろいろな工夫をして、受験を希望する高校生を中心にコロナによる影響が最小限となるよう、また効果はこれまでと同じように保たれるよう努力されているが、評価に関しては当日参加した人の評価を求めるだけではなく、受講した人の中でその後入学した学生に対しても、振り返ってこのイベントの目的が達成されていたかどうかの評価を求めると、さらに目的の達成状況についてより正確な確認ができると考えられる。		○	
21103	適切な選抜の実施（研究科）	－	－	受験者獲得に向けた広報の拡大や方法を考えて行っていることは評価できる。 今後は、県内の看護職者、看護学科卒業生に本学の研究科で学べる内容をより一層アピールし、他大学との違いや特徴を示して魅力ある選抜を行っていただきたい。		○	

21104	教育課程・教育方法・内容の充実（学部）	―	―	オンライン教育やシミュレーション教育を向上させ、即戦力となり得る高度な医療人材を養成するための経費を補助する文科省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（令和3年度補正）」に本学が選定されたことは、新しい教育方法への取組が文科省の評価を得たこととして注目される。 また、一般財団法人日本看護学教育評価機構の看護学教育分野別評価を受審し、評価基準に適合しているとされたことは評価できる。 1年生を対象に三重県知事による講演「三重を知ろう」を開講されたが、知事による講演は、学生に三重の魅力を知ってもらうための、非常に良い取組であると評価できるため、今後も継続していただきたい。 コロナ対応についての学習方法、評価がきめ細かくなされており、コロナ禍拡大の中でもできる範囲で国際交流に関する積極的な学びが提供できていると評価する。今後も継続的に学修成果評価を行い、その年度の学生を縦断的に追った長い眼でみた評価結果が示されていくことを期待する。	○	○	
21105	公正な成績評価の実施（学部）	―	―	公正な成績評価の実施のため努力していること、またその一つであるルーブリックを用いた評価をさらに拡大して進めていることは評価できる。 ルーブリック評価は、本学によれば、筆記試験等での評価が難しいパフォーマンス等の評価に適しており、演習や実習科目を中心に看護系の科目に導入しているが、今後もルーブリックによる評価に適した科目をできる限り積極的に採用し実施する努力を期待する。		○	
21106	教育課程・教育方法・内容の充実（研究科）	―	―	研究科の受講者に適した教育方法をとり受講しやすくしていること、多様な教育方法の工夫がなされていることは評価できる。		○	
21107	公正な成績評価の実施（研究科）	―	―				
21201	授業の点検・評価	―	―	「教員相互の授業点検評価」は、本学で開発・発展された教員のすぐれた授業点検・評価の方法であり、令和3年度も専任教員全員が点検評価者のよる評価を受けたことは高く評価される。一部の授業においては、点検評価者のほか、授業担当のない助手または人事交流教員が授業参観に加わり、3名で意見交換を行ったことは、教員相互点検評価のすぐれた伝統の継承である。ただ、評価者が専任教員の全員または多数であるような“集団性”も、重要であることを認識し、少しでも増やしていただきたい。 「授業改善等報告書」は、ディプロマポリシーに基づき、教員が授業の取組を振り返り、次年度に向けての「今後の授業の方針や工夫」といった教育改善の内容を記載するもので、教育改善のプロセスを明確にするために役立っている。この「授業改善等報告書」について、今後の具体的な活用方法を計画しているとのことであるが、PDCAサイクルをしっかり回して有効な授業の点検評価方法にしていっていただきたい。 また、授業評価アンケートの結果については、講義・演習科目・実習科目ともに、平均値が前年よりも上昇しており、改善が図られているものとして評価される。		○	
21202	研修会等の開催	―	―	令和3年度に本学では「研究・教育コロキウム」を3回、「FD研修会」を1回、「FD／SD合同研修会」を1回、それぞれ開催しているが、学部や研究科における研究・教育の内容や水準を高めるものとして注目され、高く評価される。		○	

21301	学習支援	―	―	本学は、令和3年4月から講義棟2階にラーニング・コモンズが設置され、学生同士のディスカッションやゼミ、グループ学習などに幅広く活用されている。ただ、全国の他大学のラーニング・コモンズが、自由で幅広い学習を支援する目的のために使用されている実情と比べると、本学では国家試験勉強支援との区別がつきにくい。国家試験の勉強の場と、幅広く自由な自主学習の場とをはっきり区別した学生へのアピールが必要不可欠である。今後はラーニング・コモンズ設置に関する学生の反応、活用方法などの評価をぜひ行っていただきたい。 学生相談制度、チューター制度については、適切に運用されており、学生が相談しやすい環境が整備されているものと評価される。 国家試験への教員の支援体制については、充実が図られていると評価できるが、国家試験合格者（看護師、保健師）について目標値100%達成に向けて引き続き工夫した支援を期待したい。		○	
21302	大社接続の支援	―	―	本学が令和4年度の入学予定者及び保護者を対象に実施した「三重県の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム交流会」について、参加した入学予定者とその保護者および医療機関からもおおむね高い評価を得たと本学は把握している。 また、「就職説明会」、「ようこそ先輩」については、アンケート結果も概ね好評であり、県内就職率向上のため、多様な試みを「大社接続支援」として明確に示し、学生にも県内の病院、行政施設にも示していく努力は評価できる。 今後はこのシステムを使って更なる内容の充実にむけて期待したい。	○	○	
21303	就職支援	―	―	本学の学生の卒業後の進路に対する支援は、学生のニーズに適切に対応している。特に、学生の意見等を踏まえて、履歴書と面接対策を中心とする就職講座を新たに開催するなど、社会情勢や学生のニーズに合った就職支援を目指して、検討・改善が図られているものとして評価される 県内就職率が62.5%と前年に引き続き数値目標を達成できたことは、各種取組の成果であると評価される。今後も、県内就職率の維持・向上に向けた、取組の継続を期待したい。	○	○	
計	12項目				4項目	11項目	0項目

＜Ⅰ－第２　研究に関する項目＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
22101	研究と地域課題との循環の促進	―	―	地域課題を今後の研究につなげる、SDGs（持続可能な開発目標）の視点を盛り込むなどの方向性は、研究と地域貢献の好循環をもたらす先進的なものとして評価される。 令和3年度の看護研究支援に含まれていた「看護研究エッセンス」は、新型コロナウイルス感染症の対応にあたる病院の事情等により受講者が減ったが、非常に意義のある取組であり、今後感染症のリスクが低減したときには、取組の中味を拡充し、積極的に呼びかけていただきたい。 なお、「連携協力協定の推進」と「人事交流教員支援」の実践それ自体は、本来、社会・地域貢献に関する内容である。これらは、そこから派生する内容として「教育」にも「研究」にも関連することであるが、研究に関する取組である＜研究と地域課題との循環の促進＞の項目に含めるのであれば、研究と地域課題への取組との関連性について、今後、より具体的に整理されることを期待したい。		○	

22102	競争的研究資金の獲得	―	―	本学の科学研究費補助金の応募申請状況は非常に高く、令和3年度も30名（競争的研究申請者31名）で申請率96.9%だったが、新規採択件数はわずか2件であり、全国の大学の平均27.9%を下回った。これは、科研費研究種目の制度自体が変わり、「若手研究」の応募資格が「博士の学位取得後8年未満の研究者が1人で行う研究」となったことで、令和3年度には該当する教員が僅か3名となったことが大きく響いている。 本学では、こうした状況を踏まえ、教員が新しい制度の「若手研究」に応募できるよう、大学院博士課程進学を支援している。また、教員の研究能力の向上を図るため、教員相互で研究指導を行うなどの仕組みも導入した。 若手教員の研究能力向上のためのこれらの新たな努力が実を結ぶことを強く期待するとともに、科研費以外の研究助成についての情報共有を積極化し、研究資金獲得に向けての努力を抜本的に強化していただきたい。		○	
22103	研究成果の公表と還元	―	―	本学教員の研究成果の発表の機会である紀要については、保存用として紙媒体で作成するとともに、発行までの期間短縮やコスト削減を図るために電子化を図り、機関リポジトリに掲載し、情報発信に努めた。教員の研究活動公表の媒体として、わかりやすい形で丁寧にされていることは評価できる。また新型コロナウイルスに関する報告書は令和2年度に引き続き紀要特別号として掲載されており、有用である。 なお、地域交流センターによる取組全般を「研究成果」として取り扱うことについては、「研究」と地域交流とがどのように結びつくのかを具体的に整理し、情報発信することが必要である。		○	
22201	研究活動への支援	―	―	各教員の専門分野における独創的・先駆的な研究を支援する体制を整えるため、研究支援に関するアンケートを実施し、教員が希望する支援・提供できる支援について情報を収集・共有するとともに教員間の調整を行った。 令和3年度に10件の教員間の研究支援が実施されたことは、学内における地道な研究活動支援として高く評価される。 研究活動支援の側面には、研究費獲得に関すること、研究倫理に関すること、研究費の不正防止に関することなどがあるが、本学の研究活動部分の強みと弱いところとを十分に分析して、長期的な計画のもと、メリハリをつけてさらに良い研究環境にしていただきたい。また、10件の具体的な内容について、支援者・被支援者の氏名・研究内容、研究発表の状況を差支えない範囲で公表していただきたい。	○	○	
計	4項目				1項目	4項目	0項目

＜Ⅱ　社会・地域貢献に関する取組＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等

31101	看護職者の能力向上	Ⅲ	Ⅲ	看護職者の能力向上のための取組は、非常に積極的に行われており、高く評価される。 三重県受託事業、認定看護師教育課程「認知症看護」修了生支援、認定看護師教育課程「感染症管理」開設、教員提案事業の看護職者に向けた取組等が行われたが、特に認定看護師教育課程「感染管理」に特定行為研修をプラスしたコースを開設したことは、コロナ禍の中で県内の看護者のニーズに合わせた開設となっていると考えられ、評価できる内容である。 また、三重県受託事業は、新規事業も含め、全体的に満足度が高く、看護職者の能力向上につながっているものである。	○	○	
31102	卒業生へのキャリア支援	Ⅲ	Ⅲ	卒業生調査の結果を分析し、キャリア支援に関する課題やニーズを把握したことは良い取組であると評価でき、今後も定期的に実施することが望ましい。 「遠方の県外者」への支援はコロナの状況が変わっても継続する必要があり、他県、とくに多くの離島を含む沖縄県立看護大学など、他大学の支援方法の調査や経験交流など、新たな工夫も期待したい。 同窓会との共同による卒業生への調査の分析も行われているが、この結果を積極的に学部のキャリア教育や大学院への進学などにぜひ結び付けていただきたい。	○	○	
32101	県民のヘルスリテラシーの向上	Ⅳ	Ⅳ	みかん大出前講座や公開講座など、県民のヘルスリテラシー向上に資するプログラムが提供されており、コロナ禍での事業であったが、活動方法を工夫しながら行っていることは評価できる。 【法人の見解を求めたい点】 なお、県民のヘルスリテラシーの向上(32101)について、本学では高い評価(Ⅳ)を付与しており、本評価委員会も同意見であるが、今後の充実のために、いくつかの問題点を指摘しておきたい。 ◎ 教員各自の専門分野を生かした講師派遣、教員提案事業で、多数の県民が参加し、高い評価を得たのは、どのようなプログラムであったか。 ◎ 3つの公開講座のうち、10月の「認知障害と自動車の運転」、1月の「こころの健康と運動」とが多数の参加者を得、好評を博したが、その理由をどのようには考えているか。 ◎ 三重県や各団体が実施するイベントと、教員各自の専門分野を生かした講師派遣・教員提案事業及び公開講座との間に、参加状況・評価の相違はあったか。		○	
33101	教育研究活動に基づく社会・地域貢献	Ⅳ	Ⅳ	県内病院等看護管理者意見交換会において、各施設の新人看護職員への教育の実際やその問題点について、活発な意見交換がなされたことをはじめ、教員各自の専門分野を活かして、県内の保健・医療・福祉の課題解決や行政機関の政策立案等に寄与しており評価できる。		○	
計	4項目				2項目	4項目	0項目

＜Ⅲ　大学運営に係る環境整備に関する取組＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等

41101	学生の生活支援	Ⅲ	Ⅲ	コロナ禍での学生への生活支援、特に健康管理面への支援が健康管理室と連携して丁寧に行われていることが学生へのアンケート結果から理解できる。また、3・4年生の回収率が改善できた点は評価できる。コロナ対応はこれからもしばらく続くと予想できるため、メンタル面への予防的アプローチも期待したい。 また、「みかん大修学支援給付金」等の更なる活用を期待したい。 本学の学生たちは、学内以外の身近なボランティア活動には、熱心に参加しており、大学生活の中に地元でのボランティア活動については徐々に定着しつつあることが理解できる。一方で、1年に1回、教員だけが参加している公立大学協会主催の集会と並行して行われる全国的規模の学生シンポジウムなどには、本学学生の参加はほとんどないようである。活動を実践した他大学の学生の感想などを参考に今後さらにいろいろな場で積極的に働きかけるなど具体的支援が必要と思われる。		○	
41102	教職員の健康管理	Ⅲ	Ⅲ	教職員満足度アンケート、職員満足度アンケートの結果がともに前年度比で低下しており、組織的かつ継続的な改善を図っていく必要があると考える。 なお、健康管理に関しては満足度アンケートやストレスチェックは一つの指標ではあるが、他の多くの要素が関係するため、引き続き多方面から健康管理のアプローチをしていただきたい。 また、在宅勤務制度を適切に運用したとあるが、職員の在宅勤務は急激に始まったところが多いため、十分に評価をしながら進めていくことが必要である。		○	
42101	教育環境・IT環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	ラーニングコモンズに対する本学の見解は認識しているが、学生が国家試験の受験勉強以外で自分たちの自主的で自由な勉学の場としてラーニングコモンズを認識しており、かつ、教員もそのように考えていることを具体的かつ明確に確認することができない。 ラーニング・コモンズの管轄は令和4年度からは学生委員会となるが、運営がうまくいっているかどうかを次年度以降の実施状況で記述をお願いしたい。		○	
42102	図書館運営の充実	Ⅲ	Ⅲ	本学の図書館の令和3年度図書購入費は非常に充実しており、その中で雑誌購入費及びデータベースの使用料の占める割合が高い。利用者の利便性と最新の研究動向を把握するために図書館を位置付けている証左であり、高く評価される。 附属看護博物館所蔵の品物のレベルの高さに比べて、展示面積が極端に狭く、教職員学生及び県民のために十分には役立っていないため、改善を強く望みたい。予算・施設の拡充が困難である事情は十分認識しているが、あえて県当局の理解を得ての改善を望みたい。		○	
42103	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	グリーン通信は、学内での環境保全に対する取組を紹介するものであり、本学の環境保全にとって非常に有用であり、高く評価される。 世界的にカーボンニュートラルへの取組が加速しており、本学においても、CO2排出量の把握と削減について検討する必要がある。 また、SDGsに関するWebアンケートは、良い取組と評価できるが、回答率が20%と低いことから、引き続き、SDGsの周知を図っていただきたい。 環境への配慮は、日々の一つ一つの些細な行動によって成り立っていくものであり、行動が身につくまで、引き続き全教職員、とくに全学生に対する効果的な働きかけを続けていただきたい。		○	

43101	大規模災害時への対応	Ⅲ	Ⅲ	大規模災害への対応として、マニュアル等が整備され、安否確認や初動対応の訓練が実施されており、教職員や学生の安全確保の態勢は整備されていると評価する。大規模災害時の一連の危機管理体制、取組、訓練が実施されているが、さらに精度をあげて続けていただきたい。 また、「安否確認システム」の返信率が過去最高だったことは評価できるが、安否確認がとれなかった理由を調べ、100%を目指していただきたい。		○	
43102	危機管理への対応	Ⅲ	Ⅲ	新型コロナウイルス感染症に関する危機管理への対応については、多方面にわたり、迅速になされており、評価できる。 一方で、それ以外のさまざま危機への対応という観点では、サイバー攻撃など、最近危険度が高まってきているものもあり、常に態勢の見直しを行っていく必要がある。 とりわけ令和3年度に起こった認定看護師教育課程開設に係る料金徴収問題に関する危機管理への対応に関しては、すぐに十分な対応ができていたとはいいがたい。徴収済料金と変更前料金の差額については関係者に返金してはいるが、事態が明らかになってからの行動である。十分な原因究明が必要であろう。			○
44101	人権尊重とハラスメント防止	Ⅲ	Ⅲ	学生や教職員に対して、ハラスメント防止についても周知徹底を図られているものと評価できる。 ハラスメントの報告件数は0であったが、報告があった場合に備えて、ハラスメント相談態勢の維持・向上を図ってもらいたい。		○	
計	8項目				0項目	7項目	1項目

＜Ⅳ　的確な業務運営の実施及び業務改善に関する取組＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
51101	組織体制	Ⅲ	Ⅲ	ガバナンスや内部統制については、不断の見直しが必要である。今回、入学検定料および入学料の過徴収の問題が発生したことを踏まえ、PDCAサイクルを適切に回し、継続的な改善・改革を推進することを期待したい。 【法人の見解を求めたい点】 本学は、令和3年度に学部長職を設置し、教務に関することのほか、学部運営における責任者としての立場を明確にし、学外との調整を円滑に進めることができたとしている。しかしながら、本学では、開学以来「学生部長」が実質的に「学部長」の役割をになうという慣行が長い間存在していたため、職と職責との関係が、明確になっておらず、位置づけを明確にすべきである。法人（看護大学）にこの点の客観性ある事実確認をお願いしたい。 年度計画に「内部統制を適切に運用する」とあるが、組織的にだれがどの部署の内部統制の責任者となっており、どの時点でどういう体制の中で最高責任者（学長）まで報告され、共有されているのか不透明であり、分かりやすく整理していただきたい。この点についても、法人（看護大学）に客観性ある事実確認をお願いしたい。		○	

52101	教職員の充足	Ⅲ	Ⅲ	大学教育の質および業務運営の適切性を維持するためには、人材の確保が重要であることから、引き続き、注力していただきたい。 特に、法人固有職員は期待される役割上、ある程度の期間、就業してもらえる人を計画的に採用できるよう期待したい。		○	
52201	教員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	新たに作成しなおした教員活動評価表を使っての自己評価や上位教員による面談であるため、評価表そのものの評価もともに行い、その内容が教員の育成、自己成長をみていくことにつながっているかを確認することが必要である。 職場環境・労働環境の改善、働き方の見直し・充実について、さらなる推進を期待したい。		○	
52202	事務職員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	本学では、設立当初は、県職員を中心に事務局を運営してきたが、その後、当面、事務局における固有職員を5名とする体制に向けて取り組み、令和4年4月に目標を達成した。 しかし、本学の事務職員の必要人数、出自についての理念、固有職員と派遣職人の比率、それぞれぞれの育成についての明確な理念と方針は未定であり、早期に決定することが望まれる。		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

＜Ⅴ　財務内容の改善に関する取組＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
61101	自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ			○	
61102	知的財産の適切な保護と活用	Ⅲ	Ⅲ	特許出願の数が増えていっていることは評価できる。		○	
62101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	教職員のコスト意識を向上させ、経費削減につなげられるよう地道に努力している。		○	
63101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ			○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

＜Ⅵ　大学教育の質保証及び情報の公開・発信に関する取組＞

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント（又は評価委員会の判断理由）	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等

71101	自己点検・評価及び外部評価	Ⅲ	Ⅲ	本学は三重県公立大学法人評価委員会から令和2年度の業務実績報告書に基づく評価を受け、全体として順調に実施していると認められ、また同委員会から第二期中期目標期間6年間の評価を受け、中期目標の達成状況は順調であると評価された。 さらに、令和元年度に大学基準協会の機関別認証評価を受け、令和2年4月1日から令和9年3月31日までの認証を受けている。 しかし、認証評価をめぐる状況は、近年、大きく変化し、伝統ある大学基準協会、大学改革支援・学位授与機構に加えて、現在は、新しく大学教育質保証・評価委員会が誕生し、全国98校公立大学の約3分の2にあたる62校がその会員校となっている。会員校が増加している背景には、認証評価の評価基準が少なく、①法令適合性、②教育研究水準の向上、③各大学の教育の特色の合計3つの基準が評価されることが大きく影響している。丁寧に評価される点は厳しいが、基準が少ない点は各大学に受け入れ易い。 本学もこういった新しい認証評価制度についても、十分に調査・研究をすべきである。		○	
71102	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	令和2年度は、4項目わたって詳細な内部監査が実施され、理事会に報告された。この報告には、監査事項、改善意見、報告事項、対応状況が丁寧に記載されており、内部監査については年々充実してきていると評価できる。		○	
72101	情報公開・情報発信の推進	Ⅲ	Ⅲ	情報公開・情報発信の推進については、広報紙MCNレポート（年4回発行）やホームページ・LINEなど、広報媒体ごとの特性を活かしながら大学情報をタイムリーかつ的確に発信した、と本学は自己評価している。確かにそうした側面はあるが、県内のメディアは大学の教育、研究、地域貢献の活動をまだまだ十分に発信していない。大学の一層の努力が期待される。		○	
計	3項目				0項目	3項目	0項目